



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2005.5 月号



博物館まつり発表会で

ごあいさつ

4月から館長を務めることになりました浜口と申します。動植物担当の学芸員として、長年仕事をしてきましたが、これからは館全体に目配りしながら、より市民の皆さんに親しまれ、そのお役に立つ館にしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。平塚市博物館は、さまざまな活動への市民の皆さんの参加協力によって支えられている館です。全国に誇れるその特徴を、これからも発展させていきましょう。

さて、皆さんは1冊の本を読んだこと、1人の人に出会ったこと、1本の映画を見たことで、その後の生き方に少なからぬ影響を受けた体験をお持ちではないでしょうか。博物館の1つの展示を見ること、1回の行事に参加することも、新たな関心を生んだり、今までと違った見方ができるきっかけになることがあると思います。そうした出会いを一つでも増やしたいというのが、学芸員の思いですし、そのためには、1人でも多くの方に、1回でも多く、館に足を運んで頂きたいと願っています。皆さんも、ぜひ、知人友人の方々に、博物館に1歩入ってみたらとすすめていただけないでしょうか。

平塚市の博物館は、図書館、青少年会館、美術館などとともに文化センターを形作っています。さまざまな施設が集まっている利点をいかし、いつも多くの方々が、自分を豊かにするきっかけを求めてそぞろ歩く、そんな文化センターになるように、いくつかの新しい試みも始めていきます。楽しめる文化センターへの動きにも注目してください。

来年には30才を迎える博物館、いっしょに末永く育てていきましょう。

館長 浜口哲一

第6回博物館まつりをふりかえって

今年の博物館まつりは、3月31日～4月5日にかけて、ひらつか市民プラザで開催しました。展示に参加したサークルは11団体。4月9日には博物館の講堂で、博物館まつりの発表会を催し、こちらには8団体が参加しました。

今回は初めて会場を市民プラザに移して開催しました。各サークルの代表者で組織する実行委員会を4回開き、半年前から展示レイアウトや当日までの段取りについて協議を重ねてきました。普段の年は博物館の特別展示室で、比較的時間をかけて展示の飾り付けを進められたのですが、今回は午後の半日で各サークルが一斉に飾り付けを終えねばならず、事前の準備を万端に整えて会場に臨みました。

さて、蓋を開けてみると、じつに多くの方が会場に足を運んでくれました。1日に百人くらいお客さんが来てくれれば上々と思っていたのですが、6日間でなんと1187名。4月1日（金）は296名が入場しました。しまいにはリーフレットが足りなくなるような賑わいぶりでした。人通りが多く、立ち入りやすい市民プラザの集客力に感心しました。博物館で開催すると、会場にはサークルのメンバーなど馴染みの人が目立つのですが、市民プラザでは何の気なしにふらりと立ち寄ってくれた人も多く、今まであまり博物館と縁の無かった人たちに、博物館活動の一端を知ってもらえる良い機会になりました。

とくに嬉しかったことが2点あります。一つは、会期中にサークル入会の申込みが4名あったことです。もう一つは、石仏を調べる会で「平塚のお地蔵さん」をテーマに展示したところ、ご覧になった田村の方から、石のお地蔵さんを博物館で引き取ってもらえないかという話があったことです。出張博物館をした甲斐が大いにありました。

半年間かけて準備してきたイベントも終わり、実行委員さんたちはヤレヤレと一息ついていることでしょう。お疲れさまでした。これから各サークルとも新入会員を迎え、また新たな活動に取り組んでいきます。そんな活動の成果が毎年の博物館まつりで公表されます。次回は春期特別展「博物館開館30周年展」の一環として3月に博物館で開催します。

(浜野)



市民プラザ会場

2005年5月29日～6月5日

寄贈品コーナー 「新資料展」

今月の寄贈品コーナーでは、各分野でこの一年間に受け入れた新着資料を展示します。

生物資料では、矢部ゆり子氏寄贈の甲虫類標本（オトシブミ類・カミキリムシ類を中心としたコレクション 240種 約800点）、紺龍彦氏寄贈のエゾライチョウ剥製標本を展示します。エゾライチョウは日本では北海道でしか見られないキジ科の野鳥です。

地質分野では、最近収集した丹沢の海底火山噴出物を示す岩石を、天文分野では寄贈を受けた環天頂アーケの写真などを、歴史分野では戦前の教科書などを展示します。

民俗分野では、小鍋島から寄贈された「オマラサン」を展示します。ここでは、この「オマラサン」について、詳しく紹介しましょう。

小鍋島はカミ・ナカ・シモ・城東の四集落に分かれ、集落ごとに道祖神を祀っています。1月14日には道祖神の祭りとしてドンドンヤキをします。小鍋島のカミでは、セエトと呼ぶ円錐状の焚き物に点火するとき、昔からある決まった家の火を用います。この家は「道祖神の家」と呼ばれ、昔、他の家の火で点けたら後日災難が起きたことがあり、今でも「道祖神の家」のマッチを使って点火することになっています。

この「道祖神の家」に木製の「オマラサン」が保管されていました。かつて1月14日の朝、集落でこの一年間にお嫁さんやお婿さんを迎えた家へ、子供たちは「オマラサン」を携えてお祝いに訪れました。近年は1月14日近くで日柄の良い日曜日に実施していました。「オマラサン」を半紙でくるんで水引をかけ、木のお盆にのせて道祖神へあげ、御神酒を供えます。それから子供たちは新婚家庭を訪れ、「オマラサンが参りました。子宝に恵まれますように」などと唱え、お嫁さんは、そっと「オマラサン」をさすります。「オマラサン」を

拝むと子宝に恵まれるのだそうです。子供たちが御神酒を置くと、家からご祝儀が渡されました。

平塚市で木製の「オマラサン」の例は他に確認していませんが、同じ小鍋島のシモでは、ダイコンを男根状に削って新婚家庭のお祝いに回ったそうです。須賀の西町では、昭和初期の頃まで、ダイコンとニンジンで男女のシンボルを作り、ダイコンの先端に油と鍋墨を練り合わせて塗り、嫁さんの顔や腹に押しつけたといいます。寺田縄でも同様にシンボルを持ち出し、ワラの先端にコブをつけた物でお嫁さんのお尻を叩いてきたそうです。

道祖神祭りのときに、男女のシンボルを携えて新婚家庭のお祝いに回る風習は、県内でも平塚市周辺地域の特色で、とくに伊勢原市に多く見られました。ダイコン・ニンジン・カブなどの野菜を細工することが多く、縄文時代の石棒のような石を用いる所もありました。小正月は一年間の農作物の豊作を祈るとともに、子孫繁栄を祈願する日でもありました。かつて女性は家の跡継ぎを産むことを強く望まれ、子宝に恵まれることは切実な願いでした。生命の誕生は作物の豊穰につながると考え、神楽などでオカメとヒョットコが演じる性的な所作も、子孫繁栄と豊作祈願に基づいています。

小鍋島では近年の少子化で行事を維持するのが困難になり、「オマラサン」も痛んできたということから、博物館へ寄贈していただくことになりました。何十年、何百年前に作られた物か定かではありませんが、原形はよくとどめています。木製の男根は県内では類例が少なく貴重な資料といえます。伝統行事がまたひとつ姿を消してしまうのは惜しいことですが、博物館では地域の庶民信仰の証として大切に保管していきたいと思えます。（森・浜野）



オマラ（平塚市小鍋島）

博物館カレンダー

2005年5月の行事

5	1	日	古代遺跡を探す会	野 外
5	7	土	地質調査会 天体観察会「月面」	野 外 月光天文台
5	8	日	水辺の楽校生きもの調べの会 民俗探訪会「ガイダンス」 天体観察会「月面」	水辺の楽校 講 堂 月光天文台
5	12	木	展示解説ボランティアの会 ☆プラネタリウム「幼児投影(～7/8)」 石仏を調べる会 湘南コケの会	講 堂 プラネ室 特研室・横内 科学室・野外
5	13	金	古文書講読会	講 堂
5	14	土	◎ 漂着物を拾う会 ○ 平塚空襲・終戦60周年記念『戦跡めぐり』 ☆ プラネタリウム「フリートークプラネタリウム」(～6/5)	虹ヶ浜 須賀・馬入 プラネ室
5	15	日	地質調査会 ◎ ろばたばなし	特研室 展示室
5	18	水	裏打ちの会 平塚社寺調査会	科学室 特研室
5	20	金	◎ 星を見る会「月木星土星」 古文書講読会	屋上・科学室 講 堂
5	21	土	星まつりを調べる会	特研室
5	22	日	◎ プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	プラネ室
5	26	木	展示解説ボランティアの会 石仏を調べる会	講 堂 特研室・横内
5	27	金	古文書講読会	講 堂
5	28	土	空襲と戦災を記録する会 地域史研究入門ゼミ	特研室 特研室
5	29	日	相模川の生い立ちを探る会	野 外

2005年6月の行事

6	2	木	展示解説ボランティアの会	特研室
6	3	金	古文書講読会	講堂
6	4	土	地質調査会	科学室
6	5	日	水辺の楽校生きもの調べの会	水辺の楽校
6	7	火	全館燻蒸休館(～6/17)	
6	11	土	◎ 漂着物を拾う会	虹ヶ浜
6	12	日	古代遺跡を探す会 地質調査会	野外 野外
6	18	土	☆ 寄贈品コーナー「空襲60年」(～7/31) ☆ プラネタリウム「太陽の動き・月の動き」 星まつりを調べる会 天体観察会「月面」	展示室 プラネ室 特研室 屋上・科学室
6	19	日	みんなで調べよう「ツバメ調べ」 民俗探訪会「展示製作」 ◎ ろばたばなし ○ 戦跡めぐり	科学室 講堂 展示室 市内
6	21	火	☆ プラネタリウム「学習投影(～7/15)」	プラネ室
6	23	木	石仏を調べる会 植物誌調査会	特研室・横内 科学教室
6	24	金	古文書講読会	講堂
6	25	土	自然の新聞を作る会 空襲と戦災を記録する会 地域史研究入門ゼミ	野外 特研室 講堂
6	26	日	相模川の生い立ちを探る会 ◎ プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	野外 プラネ室

☆: 展示(無料)、プラネタリウム(観覧料) ○: 申込制 ◎: 自由参加 無印: 年間会員制

<展示とプラネタリウム>

☆ 春期特別展「近世平塚への招待 - 館蔵資料にみる23題」
会期: 5月8日(日)まで
時間: 9時～17時(ただし、金曜日は19時まで開館)
会場: 博物館特別展示室

☆ プラネタリウム

「5月の天文現象」
投影日: 5月7日(土) 14時
観覧料: 100円(中学生以下無料)

「フリートークプラネタリウム」

投影日: 5月14日(土)～6月5日(日)までの土・日曜日の11時と14時
観覧料: 100円(中学生以下無料)

☆ 寄贈品コーナー

「新資料紹介」
博物館に収蔵された人文・自然の新資料を紹介します。
会期: 6月5日(日)まで

<参加者募集>

◎ 漂着物を拾う会

海岸に流れ着いた物から、来歴を推理したり、自然環境を考えます。
日時: 5月14日(土) 9時30分～11時
場所: 平塚虹ヶ浜海岸
(ただし、初めての方は往復はがきで申し込むこと)

◎ ろばたばなし

民家の囲炉裏端で昔話を聞いてみませんか。
日時: 5月15日(日) (1)13時20分～(2)15時～
場所: 展示室民家

◎ 星を見る会「月・木星・土星を見よう」

月面の海やクレーター、土星の環などを望遠鏡で眺めます。
日時: 5月20日(金) 19時～20時30分
場所: 博物館科学教室・屋上

◎ プラネタリウムで宇宙を学ぶ会

日時: 5月22日(日) 15時30分～16時30分
場所: プラネタリウム
参加: 自由参加(中学生以上)

※常設展・特別展ともにボランティアによる展示解説が受けられます。

<休館のお知らせ>

燻蒸により、6月7日(火)～17日(金)まで休館します

あなたと博物館 31巻2号 通算341号 発行 平塚市博物館 2500
〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

E-Mail:muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/>